

おおてみち

第57号

平成18年(2006年)10月15日
滋賀県立安土城考古博物館

平成18年度秋季特別展

信長の城・秀吉の城

織豊系城郭の成立と展開

開催期間 10月7日(土)～11月19日(日)

開催時間 午前9時～午後5時
10月7日(土)は開館時間30分短縮

会場 滋賀県立安土城考古博物館

入館料 大人 860円 / 660円
 高校生 830円 / 450円
 小学生 400円 / 300円

※12歳以上20歳未満の青少年は、
 平日(土曜日の前日)のみ通常料7割引きです。

休館日 月曜日
(月曜が休日の場合は休館日の翌日も休館)

主催 滋賀県立安土城考古博物館

平成一八年度秋季特別展

「信長の城・秀吉の城」

織豊系城郭の成立と展開

織田信長と豊臣秀吉により押しすすめられた天下統一事業は、それまでの城作りをも一変させました。いわゆる織豊系城郭の成立です。

安土城・大坂城・聚楽第などは、高い石垣をめぐらせた城の調製や、礎石を利用して金箔瓦を葺いた建物、そして本丸に高くそびえる天主・天守などで構成されています。これら、新しいかたちの織豊系城郭は、天下統一事業の進展とともに日本全国へ広まり、各地でその威容を誇示するようになります。見慣れない高石垣や天守を御覧した人々は、そこから長い戦乱の歴史と新しい權威の登場を実感したのでしょうか。

今回の秋季特別展は、今も全国各地に残る近世城郭の原型となった織豊系城郭の成立と展開を、安土城・大坂城・聚楽第はもとより、近年調査が進む各地の織豊系城郭の出土資料を中心に、文献資料・美術資料などを織り交ぜながら紹介していきます。

主な展示資料

- 聚楽第跡出土金箔瓦（重要文化財）京都府教育委員会蔵
- 基礎埋込瓦（重要文化財）名古屋市博物館蔵
- 大坂城垣石瓦（大坂城天守復元）
- 聚楽第行幸御旗（重要文化財）

大坂城跡出土金箔瓦（複製）大坂府文化財センター蔵

（複製）大坂府文化財センター蔵

平野城跡出土遺物（山形県立考古博物館蔵）

岡山城跡出土金箔瓦（岡山市教育委員会蔵）

関連行事

●記念シンポジウム

日時 平成一八年一〇月一五日（日）
二時～一七時

●「信長の城・秀吉の城」

コーディネーター 東京都教育委員会 中井 均氏

事例報告一 「近世城郭の成立と行状」

講師 岡山市アジアルミュージアム

事例報告二 「金箔瓦の出現と展開」

講師 織豊系城郭研究会 加藤 理文氏

事例報告三 「天主から天守へ」

講師 (財) 滋賀県文化財保護協会

講師 (財) 滋賀県文化財保護協会 水戸 雅寿氏

●特別講演

日時 平成一八年一〇月二十九日（日）
一三時三〇分～一五時

●「関本藩聚楽第跡の調査」

講師 八代市教育委員会 白内 洋成氏

●特別講演

日時 平成一八年十一月二日（祝・金）
一三時三〇分～一五時

●「山形県立考古博物館の調査」

講師 山形県立考古博物館 センター 宮原 孝氏

●会場

会場はいずれも本館七エントランス

資料は一四〇名（三日前迄受付可、参加無料）

（財）滋賀県文化財保護協会調査整理課通信

井戸枠に転用された丸木舟

—弘明寺跡の調査から—

調査整理課では、平成十六・十七年度にかけて発掘調査を実施した守山市弘明寺跡の整理調査を行っています。発掘調査では、弥生時代の基跡や古墳時代、奈良・平安時代、中世の基跡を発見しました。その後の整理調査で、古墳時代の井戸に用いられた井戸枠が丸木舟をリサイクルして製作されたものであったことが発見されました。

この舟には深みや削りだされた段が残っており、船体に付加された部材の痕跡があることがわかりました。たがし、この舟は弥生時代以降に琵琶湖周辺で発見されている準構造船とは異なるものでした。このように井戸枠とすると舟は単純に木を削り削いて作られた丸木舟から、一歩進んだ構造を持つ舟であったと考えます。



丸木舟



丸木舟

収蔵資料紹介

大津市穴太飼込古墳群出土

須恵器特殊扁蓋

高さ二四、四×幅一五、〇×奥行八、八

大津市北郷地区には約千基にも及ぶ後期古墳が二〇余りの群に分かれて分布し、滋賀県を代表する後期古墳として有名です。その中には、横穴式石室の支室の平面形態が正方形で、副葬品にミニチュア炊飯具を持つなど特徴的な古墳が目立ち、渡来系氏族の基礎であったと考えられています。穴太飼込古墳群は、その中の一つの群であり、現在四五基程度の分布が知られています。

今回紹介する特殊扁蓋は、昭和四三年（一九六八年）の墓道新設工事に伴って発掘調査が実施された際に出土した遺物ですが、十三号墳の北側を走る里道の崖面から採集されたものであるため、どの古墳に付う遺物であるのかはよく分かっていません。

特殊扁蓋は、近畿地方から東海地方を中心として、全国で二〇点程度しか出土例のない特殊な形態をした須恵器です。本例のような無柄のもの、柄の付いた有柄のものが知られており、滋賀県内の資料としては、東京国立博物館に高島市藤野出土の有柄のものが所蔵されています。また、穴太飼込古墳群に隣接する穴太野添古墳群からも、有柄特殊扁

蓋の破片と考えられるものが採集されています。

本例は、口縁部を山形にカットし、表面は同心円状に区画する比喩や、刺突文で飾られています。無柄の特殊扁蓋には、本例のように表面に丸い孔が貫通しており、この孔に棒状の柄を差し込んで、ヒシヤケのように使用されたものと推定されています。ただし、特殊扁蓋が出土するのは古墳などに限られており、集落遺跡からは出土しないことから、葬送儀礼に使用された特殊な道具であろうと考えられ、実際に遺体を注いで使用されたものであるのかは不明です。（田中洋介）



安土城郭調査研究所通信

大平周辺環境整備工事について

平成一六年度から発掘成果に基づき、大平周辺の環境整備工事を実施しています。平成一六年度は大平東側、平成一七年度は大平西側の、それぞれ石原より上部の整備を実施しました。

写真は第五十五号で紹介した西側形虎口の整備状況です。石垣は芋みにより崩壊のおそれのある部分は積み直し、欠損部分は補填積みを行っています。天端はオリジナルの高さが分からないため途中までの復元とし、わざと揃えていません。左側の横積積み石垣の上部の石垣は江戸時代に農地利用のために築かれたもので、崩壊後の歴史も理解できるよう残しています。階段石はすべて無くなくなり、遺構面も失われていました。このため復元で復元したことが分かるよう、踏み石は花崗岩切石としています。舗装は、ウッドチップを敷設で固めたものです。



整備前



整備後

博物館の主な催し

1 月	12 月	11 月	10 月	月
10月7日～11月19日 秋季特別展 「惣長の城・常吉の城—織田系城郭の成り立ち展—」				展示
<p>11月15日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>11月16日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>11月17日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>11月18日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>11月19日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p>	<p>12月1日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>12月2日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>12月3日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>12月4日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>12月5日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p>	<p>11月1日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>11月2日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>11月3日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>11月4日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>11月5日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p>	<p>10月1日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>10月2日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>10月3日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>10月4日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p> <p>10月5日 特別展「織田信長 天下の布衣」</p>	<p>博物館の行事</p>

※本表は、本館のホームページ（http://www.gokubi-museum.or.jp）に掲載されています。

「縄文時代の丸木舟に乗ってみよう！」

を開催しました

当館では、特別展・企画展などの展示事業のほか、シンポジウムや博物館講座、体験博物館など、各種の催しを開催しています。今回は、第二回企画展「丸木舟の時代—伊賀湖と古代人—」の開催期間中に、開湖行事として実施しました「縄文時代の丸木舟に乗ってみよう！」を紹介させていただきます。

このイベントは、縄文時代の丸木舟を一般の方々に体験していただくという趣旨で、平成十八年八月一日に北江八幡宮沖田町宮前池の水泳場の一帯で、体験村北江八幡宮のご協力をいただいて実施したものです。

参加者に試乗していただいた丸木舟は、平成二年に湖北町尾上浜遺跡で出土した縄文時代の丸木舟をモデルにして、実物大に複製したものです。企画展でも展示していました全長五、五六呎の複製丸木舟をトラップで合場まで運び込み、準備してお申し込みいただいた参加者一六名の方々に、約一〇分間ずつ湖上での航行を体験していただきました。

なお、この

複製丸木舟は、

現在には滋賀県

立安土城考古古

博物館の中庭

の回廊部分に

展示してあり

ますので、ご

来館の際には

ご覧下さい。



おおてみち 第57号

平成18年(2006年)10月15日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県栗生郡安土町下巻通667番 TEL 0748-66-2424
E-mail: gokubi@gokubi-museum.or.jp URL: http://www.gokubi-museum.or.jp